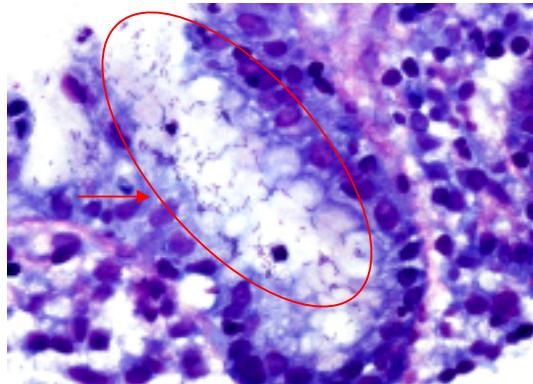




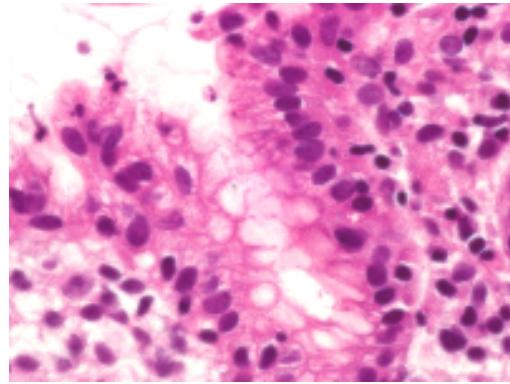
Labo letter

検査情報

ヘリコバクター・ピロリ菌



ギムザ染色



HE 染色

ヘリコバクター・ピロリ菌(以下ピロリ菌)の胃への感染を Warren と Marshall が報告してから 20 年以上が経過し、それ以来、ピロリ菌に関する研究は目覚しく、ピロリ菌の感染と胃粘膜病変の関わりは、ほぼ確実視されています。それに伴い、上部消化管疾患の概念や治療法は大きく変わってきています。

最近このピロリ菌が胃粘膜を破壊する仕組みを、北海道大学の畠山教授らのグループが突き止めたとの報告があり、その新聞記事を紹介します。2段階の癌化のメカニズムが示され、更なる研究が期待されます。

29

社会

14版

2007年(平成19年)5月17日

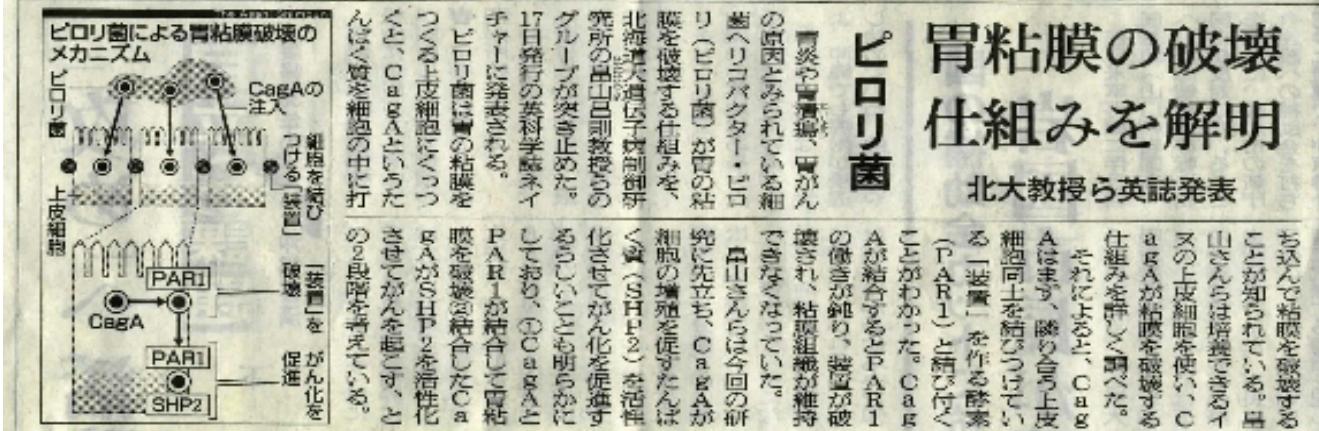
木曜日

享月

三

胃粘膜の破壊 仕組みを解明

北大教授ら英誌発表



さて、検査方法としては、①鏡検法 ②培養法 ③抗体測定 ④尿素呼気試験 ⑤糞便中抗原測定等があり、医師会病理検査室では①鏡検法を行っています。写真に示していますように、ギムザ染色にて、菌の確認を行います。HE 染色では菌の確認は容易ではありませんが、ギムザ染色では菌が明瞭に染まってきます。(②③④⑤は外注検査)

医師会病理検査室での報告様式 [粘膜面でのピロリ菌の評価]

粘膜面のどこにも菌が認められない・・・(0)

粘膜面の 1/3~2/3 に認められる・・・(2+)

粘膜面の 1/3 以下に認められる・・・(1+)

粘膜面の 2/3 以上に認められる・・・(3+)

センター紹介シリーズ

血清検査

血清検査で行われている検査は、梅毒、B型肝炎、C型肝炎等の感染症の検査、血液型、交差試験等の検査があります。その他、ASO、マイコプラズマ、寒冷凝集、RA、RAPA、 AFP定性、ATL、サイロイドテスト、マイクロゾームテストを行っており、殆どが約半日で報告出来るようになっています。

また、週2回行う検査にアレルギー(月・木曜日)、腫瘍マーカー、甲状腺、インシュリン(火・金曜日)、週1回の検査に抗核抗体(水曜日)があります。また、新生児の代謝異常の検査も当検査室で行っています。

判定に時間を要する項目もありますが、特に術前検査等では出来る限りの緊急対応もしております。

お知らせ

☆☆プロトロンビン時間の試薬を変更しました☆☆(H19.9.3~)

プロトロンビン時間が延長する場合には、凝固因子の欠乏または異常症、肝硬変などの重症肝機能障害、DIC（播種性血管内凝固症候群）、循環抗凝固因子抗体の存在などが考えられます。その他、経口抗凝固療法の管理に測定されます。その際にPT-INR（国際標準比）が指標になりますが、PT-INRは国際標準試薬の感度を1.00と定義し、試薬の相対感度（ ISI）を用いてPT比（患者PT秒÷基準対照PT秒）を補正したものです。

この度、より感度の良い試薬の使用が可能となったため、INR換算による誤差が小さくなりまます。試薬の変更に伴い、参考基準値も下記の様に変更しました。

	変更前	変更後
PT時間	10～12秒	10～14秒
PT活性	80～100%	70～130%
PT-INR	0.9～1.1	0.9～1.1
PT比	0.9～1.1	0.9～1.1 (血液検査室)



検査Q&A

Q：簡易型夜間無呼吸検査をしたい
のですが？

A：当センターでは、機器貸し出し、解析、判読までを含めて1回の検査料4000円となっております。
(保険点数：720点 生体検査判断料：脳波検査140点)
はじめて使用される場合は、検査希望日に合わせて機器の使用法など説明に伺います。
当検査センターまでご連絡下さい。 生理検査室

編集後記

創刊号を出してほっとしたのも束の間、2号の発行となりました。不慣れな私共にとって、このペースでの発行に多少不安もありますが、少しでもお役に立てる情報をお届けできるよう頑張っていきたいと思います。末永くご愛読の程、お願い致します。

ご意見・ご質問等、お待ちしております。

編集委員 岩野千春・大田美千代・亀井美由紀

田中郁子・畠里佐子

発行責任者 椿安志

〒751-0831 下関市大学町2丁目1-2

下関市医師会臨床検査センター

TEL 0832-52-2188 FAX 0832-55-0726

TEL 0832-52-3794(検査室直通)